

誓いの言葉

本日は、二十歳という人生の節目を迎える私たちのために、このような素晴らしい式典を開催していただきまして、深く感謝申し上げます。また、ご来賓の皆様、地域の皆様からは温かいお祝いや激励の言葉、そして記念品を賜り、二十歳となる私達を代表して心より御礼申し上げます。

さて、私たちが上田市立第五中学校を卒業してから、5年の月日が経とうとしております。5年前、不安と期待を抱えながらそれぞれの道を進み始めた私たちは、就職や進学を経て、本日、より一層成長した姿で再会することができました。

現在、私は学びを深めるために上田市を離れて生活をしています。将来は地元で教員として働くことを目標に、大学では専攻する学業の傍ら、教員免許取得を目指して日々励んでいます。

また、教員としての将来を見据え、スイミングスクールのコーチとしてアルバイトをし、大勢の子供たち一人一人と向き合う毎日を過ごしております。

慣れない土地での生活は全てにおいて新鮮であり、同時に自分自身の未熟さを痛感する日々でもあります。親元を離れたことで、両親の存在がいかに大きなものであったか、改めて気づかされました。家に帰れば温かいご飯が並び、いつの間にか洗濯物は乾いていること。私が何気なくねだった本を買うことは、どれだけ大変か。二年前の私は恥ずかしながら、そのありがたみを十分に理解していました。大人になるということは、単に自由を手に入れることではなく、自分の生活と行動を、自分自身で背負うことなのだと実感しております。

二十歳という日を迎え、私が思うことは、これまで支えてきてくださった皆様に感謝を伝えること。周りはおめでとう、ありがとうとお祝いや感謝の言葉を送ってくれます。しかし本当は私たちがありがとうを伝えなければなりません。この20年間、私たちは誰かの力を借り、頼り、時に甘え、ここまで成長してきました。なかには、あの時はごめんねを言わなくてはならない人もいるかもしれません。日頃言えないことを、成人になった今、伝えるべきだと私は考えます。そして、感謝を伝えるとともに成人としての責任ある行動が求められます。これからは社会の一員であるという自覚を持ち、誤った情報に惑わされることなく、自分の正しいと思える道を自分の力で選択していく必要があります。多様性、グローバル化が進む時代に、一人一人が自分にできることは何かを考え、自分らしく社会で活躍できるよう努力してまいりたいと思っております。

最後になりますが、この場をお借りして、今日に至るまでたくさんの愛情で育ててくれた家族、温かく見守ってくださった地域の皆様、真摯に向き合ってくださった先生方、そしてかけがえのない友人たちに、改めて心から感謝申し上げます。まだまだ未熟な私たちはありますが、今後とも皆様方にはご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

この感謝の気持ちと、上田で育った誇り、そして成人としての決意を胸に刻み、これから的人生を力強く歩んでいくことをここに誓います。

令和8年1月11日

上野が丘公民館会場

(第五中学校区域)

代表 石沢 麻琴